

学位論文審査結果の要旨

学位申請者 氏 名	Rampathige Indika Ruwan Prasanna
審査委員	主査 佐賀 大学 教授 白武 義治
	副査 佐賀 大学 教授 小林 恒夫
	副査 鹿児島 大学 教授 岩元 泉
	副査 鹿児島 大学 教授 田代 正一
	副査 琉球 大学 教授 内藤 重之
審査協力者	
題 目	<p>Regional Food Chain System for Sustainable Purveyance, Agricultural Production and Local Resources Utilization in Sri Lanka</p> <p>スリランカにおける持続的な食料調達、農業生産と地域資源を活用できる食物連鎖システム</p>
<p>1980年代以降、国際競争は多くの発展途上国の農業を存亡の危機にさらしている。多くの経済学者は、国際競争の影響を打ち消すための財政政策や金融政策を提案しているが、実証的根拠に基づく解決策に焦点を当てていない。本研究は、スリランカにおいて地域資源の利活用により持続的な農業生産と食料調達に取り組む食物連鎖システム（FCSs）を対象に分析した。そして、スリランカにおける国際競争の影響を緩和する最適な解決策を提示することにした。本研究は、FCSsへの接近法として地域資源循環システム（RCSs）に着目した。分析視点は、第1に、各地域の異なる風土に適合した典型的なRCSsを特徴づけること、第2に、経済の自由化がもたらした経済的、社会的、環境的な悪影響を払拭するRCSsの機能を明示すること、第3に、そのRCSsの今後の展開条件を確定すること、の3視点とした。本研究は、帰納的な分析法を用いて、スリランカで典型的な5事例を対象に実証的な研究を行った。</p> <p>最初の研究事例は、砂糖部門によって主導されたRCSであるが、そのRCSにおける農家と加工業者間の地域資源の効率的循環の機能的意義を検討した。その結果、RCSの意義は、①地元産原料を使用する加工部門の国際的競争への対応力の強化、②地域住民に対する雇用機会の創出、③地域住民の生活条件の改善、④農村貧困の緩和、等の側面にあることを示した。砂糖や関連商品の製造過程における地域資源への強い依存が、海外産輸入原料への最小依存につながったこと、主要な地場産原料に基づく加工部門がより大きな付加価値生産段階へステップアップして</p>	

生産システムを多角化したことを示した。また、このRCSがシステム内の加工業へ電力エネルギーを供給し農民へ肥料を供給していること、さらに、そのRCS内サトウキビ栽培農家の経営費や農業所得を比較的優位にしていること等を明らかにした。

第2の研究事例は、酪農部門における二重の資源循環システム（RDCS）である。ここでは、国際的競争下における酪農家の生産性向上と経営強化による地元酪農部門の活性化条件を検討した。本研究は、スリランカにおける独立自営小規模酪農家の酪農と作物の複合経営及び酪農関連産業を研究対象とした。分析により、そのRCSが有する、①農家レベルでの複合化による資源管理の有効性、②酪農の生産性と所得の改善性、周年就業機会の供与性、家族労働力の効果的効率的な利用性、③より良い原料乳と適正価格が獲得できる競争的サプライチェーン・システムの有効性、④有機肥料とバイオガスの生産・使用による環境配慮への積極性などの諸点を明らかにした。

第3及び第4番目の研究事例は、ココナッツ部門における伝統的な資源循環システムである。ここでは、地域経済基盤のココナッツ部門に対する国際競争の影響を緩和する上で、そのシステムが有する3つの重要な特徴を示した。それは、①主な原材料となる作物が当該地域風土への適応性が高く栽培しやすいココナッツであること、②その主要作物ココナッツを基盤とした多様な産業が形成されていること、③そのシステム内すべての小規模農家に重要な経済的機会を与えていることである。本分析は、また、そのシステムが有する地域経済安定化への3条件を示した。それは、①当該地域で主要な原料ココナッツを基盤にした価値付加システムであること、②地域経済における家庭内製造業が中規模・大規模な加工産業への成長要因になっていること、③ココナッツ加工産業が地元労働市場に大きく貢献していること等である。さらに、本システムが地元農民にとって需要寡占市場構造であるにも関わらず、農民の経済状態が全体的に弱体化しなかったこと、本システムがココナッツ産地に立地しながら、農民に多様な農業と労働報酬を得る機会を与える機能を有していることを明らかにした。

第5の研究事例は、ゴム部門における農業協同組合と小規模農家間の相互作用システムである。スリランカにおいて、不利な条件にあるゴム小規模農家を経済の自由化から防護する為に、協同組合の生産と販売の両事業によって農民の経営努力と地域資源を結合させることの重要性を示した。協同組合によるマーケティングの販売チャンネル構造と機能の分析は、主に付加価値製品の品質改善、市場搾取問題の削除、市場参入の面で、協同組合が小規模農家のマーケティング改善に寄与していることを明らかにした。

以上、本論文は、国際競争環境の下で、スリランカにおける持続的な食料調達、農業生産、地域資源活用の方法としてFCSsと関連したRCSsを提示した。これらの研究成果は、開発途上国の農業市場経済学研究分野において価値ある新知見を提起した。そこで、本論文は、博士(農学)の学位論文として十分に価値あるものと判定した。